

平成 27 年度 第 7 回長野市総合計画審議会 会議録

日 時：平成 28 年 3 月 28 日（月） 午後 2 時から

場 所：庁議室（第一庁舎 5 階）

出席者：委 員/ 三浦会長、有澤委員、上野委員、碓井委員、金井委員、川北委員、白石委員、滝沢委員、藤森委員、堀江委員、本間委員、増山委員、柳沢委員、山浦委員、山口委員

長野市/ 寺澤総務部長、市川企画政策部長、平野財政部長、原市民生活部長、田中保健福祉部長、松坂こども未来部長、井上環境部長、久保田商工観光部長、松本文化スポーツ振興部長、広沢農林部長、上平建設部長、轟都市整備部長、宮澤駅周辺整備部長、藤沢教育次長（行政）、田川教育次長（教育）、柳沢上下水道局長、西澤消防局長、田原危機管理防災監

事務局/（企画課） 増田課長、花立部主幹、小川係長、轟係長、佐久間係長、竹内主査、宮坂主査、奥田主査、白澤主事

（人口減少対策課） 川上課長補佐、関谷係長、松林係長

1 開会

（事務局）

定刻になりましたので、これから長野市総合計画審議会を開会いたします。

進行を務めます企画課の花立と申します。よろしくお願いいたします。

本日の資料は、事前にお送りいたしました次第と資料集、別紙資料、総合戦略のアクションプランの別冊資料でございます。本日、机上に 2 点又は 3 点の資料をご用意しております。一つ目が、右上に「イメージ」と書かれました一枚の紙でございます。本日の追加資料でございます。後ほどご説明させていただきます。それから、前回撮影いたしました写真を置かせていただいております。また、前回ご欠席の方には市議会の特別委員会との意見交換会をいたしました会議録を置かせていただいております。ご確認をお願いします。

本日、園原副会長、池田委員、塚原委員、長峯委員からはご欠席のご連絡をいただいておりますのでご報告いたします。それでは、三浦会長よろしくお願いいたします。

2 会長あいさつ

（三浦会長）

皆さんこんにちは。年度末のお忙しい中、ありがとうございます。ただ今ご紹介がりましたが、前回までに総合戦略を市長に答申するということろまでできました。ありが

とうございました。

総合戦略がほぼ固まったということで、今回から第五次総合計画についての内容に入っていきますが、ご案内のとおり本日は基本構想の案を年度内に固めて、来年度に向けてスタートを切りたいということでございますので、来年度に向けていいスタートが切れますようご協力お願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。それでは審議に移りますが、議長につきましては三浦会長をお願いいたします。なお、審議時間ですが、事務局といたしましては午後4時頃を目途にしたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

3 議事

(三浦会長)

それでは、総合計画審議会の資料集で第五次長野市総合計画基本構想(案)について事務局よりご説明をお願いいたします。

(事務局)

企画課長の増田でございます。よろしくお願いいたします。ただ今、会長よりご説明があった資料集と別紙資料がございますので、そちらをご覧くださいと思います。

— 資料に基づき説明 —

以上で説明を終わります。

(三浦会長)

ありがとうございました。まず、3ページ目の序論のところから13ページの「まちの将来像」のところまでの前半部分の基本的なところでご意見がありましたらお願いいたします。

(柳沢委員)

細かくなりますが、5ページの「価値観の変化・多様化」のところ、「こうしたことから、市民ニーズが複雑・高度化していくことが想定されるため、的確に対応していく必要性が高まっています。」とありますが、何に対して的確に対応していくかが分かりづらいので、例えば「市民ニーズに的確に対応していく」とした方が分かりやすいと思われました。

それと、その下の「安全・安心に対する意識の高まり」の部分で、「大気汚染などの環境問題や特殊詐欺などの事件・事故の続発により、安全・安心に関する意識の高まっています。」とありますが、「事件・事故の続発」によって安心・安全に関する意識が高まっているのであって、「大気汚染などの環境問題」はまた別ではないかと思うので、「大気汚染に対する環境保全意識の高まり」という事を別に記載した方がいいのではないのでしょうか。施策の大綱のところでは、環境分野では「環境を保全」という言い方をしております。防災・安全分野では「安全・安心」という言い方をしていますので、そこと整合性を図るのであれば、環境汚染などは、「環境の保全意識の高まり」とした方がいいと思います。

(事務局)

環境の作業部会でも検討してみたいと思います。ありがとうございます。

(山口委員)

6ページ7ページに関してですが、「独自の歴史・文化」と「産業の構造」の両方について、観光という言葉がどちらにも入っていませんが、今後、観光ということも重要になってくると思います。「独自の歴史・文化」か「産業の構造」のどちらに入れたらいいかということはありませんが、観光についてはどのようにお考えでしょうか。

(事務局)

産業としての考え方の問題にもつながると思いますが、統計上では「観光業」という区分けはございません。6ページの「交通の要衝」のところには、「北陸地方との」と限定はしてしまっていますが、「観光・経済」ということは載せてありますが、全体としての話は数値がなかったことによって記載してありません。今回のまとめ方の一つに、バックデータがあるものについて述べていくということがありますので、データの取れないもの、あるいは取りづらいものについてはあえて書いていないということですが、いかがでしょうか。「観光業」といった形で表現したほうがよろしいでしょうか。

(事務局)

観光の関係では、観光の入込客数とか、そこからの推計値にはなりますが、観光消費額といったものもあります。実際に産業分野では、そのような数値を使って指標としていくということも考えられるかと思っております。それを、長野市らしきとして記載するかについては、産業分野とも話をさせていただいて、書き込めるものがあれば追加したいと思います。

(本間委員)

8 ページのところの人口推計に関して、3 月に長野市から発表されている新しい国勢調査のデータでは、長野市は 3,700 人の減少という報告が出ています。ところが、この資料では約 8,800 人の減少になっています。二つの数値にかなりの差がありますが説明をお願いします。

(事務局)

おっしゃるとおりでございます。以前に出していた数値よりも、下がり方が小さかったというのが今回の特徴です。これは長野市だけでなく県内のいくつかでも、同じようなデータが出ております。ただ、これは速報値ですので確定値になった段階で書き換えるという形にしたいと思います。しかし、その時に将来推計の部分が変わってくることも当然考えられますので、大きく変化するようであれば何らかの措置は必要になるかと思いますが、全体としては減少に向かっているという考え方そのものは、今作ろうとしている基本構想の考え方で合っていると思っていますので、現時点ではこの形で進めていこうと思っています。

(滝沢委員)

それぞれの分野ごとのまちの姿を見ますと、括弧がついて「ながの」と強調されています。ですので 13 ページの「幸せ実感都市 ながの」の部分も、合わせて強調させるために空白のある括弧をつけて、『ながの』としたらどうでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。実は表記の仕方に関しては、これに限らず検討中ものがあります。それらは最終的にもう一度検討したいと思います。

(白石委員)

6 ページ 7 ページに関して検討していただきたい部分ですが、「地理的な特性」の部分で「季節風の影響を受けにくい」というのが出てきまして、その次に「日本海側の気候の特色も併せ持って」いるとなっていますが「日本海側の気候の特色」というのが「季節風の影響」ではないかと思うので矛盾していないでしょうか。また「豊かな自然」の部分では、「多様な生物が生育し」とありますが、動物はこの中に入っていないのでしょうか。動物は「生育」とは言わないものですから、お考えをお聞きしたいと思います。7 ページの「産業の構造」の部分では「第一次産業では、農家数の減少や従事者の高齢化が進行しています。」とありますが、これは全国的にこういった事が進んでいて国家的な問題になっておりますので、あえて長野らしさの中に記載しなくてもいいのではないかと感じております。

(事務局)

ありがとうございます。ご指摘いただいた部分に関しては、改めて文言を精査した上で最終的にフィードバックしていきたいと思っております。

(三浦会長)

第一次産業に関してはどういたしますか。記載しなくてもいいのではないかというご意見でしたが、少子・高齢化が進んで記載せざるを得ないと思っております。

(事務局)

確かに、この部分をとってしまうのは「強み」を強調することにはなると思っておりますが、課題を抱えているという部分では、全国共通の課題を抱えているという意味合いを見せる、というのも一つの手段かもしれないと思っておりますが、こちらも合わせて検討いたします。

(碓井委員)

6 ページの「豊かな自然」のところで、「多様な生物」が「自然環境と生態系を健全に維持していくための基礎」となるならば、もう一つ「森林と」という言葉を記載しなければいけないと思っております。動植物がそこに繁殖していたとしても、それを担う森林というものがなければ生態系の維持ができないと思うので、「基礎となる森林と多様な生物」とした方がいいかと思っております。

(事務局)

ありがとうございました。検討いたします。

(柳沢委員)

1 点目、12 ページの部分ですが、「(2)「持続可能な」まちづくりの推進」のところで、「地球温暖化の防止や生物多様性の確保、限りある資源の有効活用など、直面する環境問題の解決に向けた取組」とありますが、「地球温暖化の防止や生物多様性の確保」は環境問題になると思っておりますが、「限りある資源の有効活用」は、環境問題とは別かなと思っておりますので、例えば「地球温暖化の防止や生物多様性の確保など、直面する環境問題の解決と、限りある資源の有効活用に向けた取組」としたらどうでしょうか。2 点目は、13 ページに「価値観が多様化し行政課題が複雑化しているため、住民の福祉の増進を図る」とありますが、「価値観が多様化し行政課題が複雑化しているが、住民の福祉の増進を図る」の方が合っているのではないかと思っております。3 点目は、「多くの市民が本市への誇りを胸に未来への希望を実感できるまちづくりに向け、全市を挙げて取り

組むことを『“オールながの”で未来を創造しよう』となっていますが、これだと「市民」が「希望を実感できる」ではなく、「市民が」と「まちづくりに向け」が対応してしまっていて、「全市を挙げて取り組むこと」というのがなんとなくしっくりこない気がします。「多くの市民が本市への誇りを胸に未来への希望を実感できるよう、全市を挙げてまちづくりに取り組むことを『“オールながの”で未来を創造しよう』ではないでしょうか。ご検討いただければと思います。

(事務局)

ありがとうございます。文言等についてはまだ検討すべきものもありますので、お気づきの点があれば、その都度教えていただきたいと思います。

(川北委員)

5ページの「経済情勢」についてですが、財政のことや行政経営資源をどう配分するかということが書いてありますが、経済の情勢なので、例えば産業をこうしようとか、産業について触れなくてもいいのでしょうか。また、6ページの「都市としての機能」の中に高等教育機関の話がありますが、「信州大学」という固有名詞を挙げていいのでしょうか。

(事務局)

経済情勢のところ、確かに「時代の潮流」と書いておきながら客観的な部分というのは始めの部分だけで、あとは行政の部分とも読み取れるかなと思いました。産業のことについて、何らかの記載をすれば、「産業の振興を図って、税収の伸びを求めていくとともに」ということではないかと思います。本来は、「時代の潮流」という客観的な視点から書いているところなので、これもまた改めて検討いたします。ありがとうございました。それから「信州大学」という固有名詞についてですが、いくつかある高等教育機関の一つとして挙げてありますが、これもまた話し合いをして、このように固有名詞を記載することが、場合によってはより具体的にイメージを持ってもらうことにもなるかもしれないですし、他との関係で記載しない方がいい、ということになるかもしれません。本来の趣旨である、どこに力点を置くかという観点からもう一度考えさせていただきます。

(三浦会長)

ありがとうございました。他にご意見等ないようでしたら後半の14ページ以降の具体的な施策についてのご質問、ご意見に移りたいと思います。

私から1点お願いいたします。以前も質問したかもしれませんが土地利用構想の部分で、土地の利用区分に、「産業団地」というような区分はないのでしょうか。

(事務局)

土地利用構想の関係は、国の国土計画法を受けて作っております。そこでの区分では今の「産業団地」というようなところは、「宅地」に区分されています。それを受けて県や市の計画がありますので、市でも「産業団地」を区分するとすれば「宅地」になるということです。

(柳沢委員)

細かい部分ですが、15 ページの「土地の適切な管理と有効活用」から下の部分で、見出しと本文が、分かりづらい表記になっているので直した方がいいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。文言を検討すると同時に体裁も整えていきたいと思っています。

(三浦会長)

後半の部分につきましては方向性をご審議いただきましたので、各部会で詰めていってほしいと思います。細かい文言等につきましては今後検討していただくとして、基本構想については皆さんのご了解を賜ったということによろしいでしょうか。

それでは、(2) 第五次総合計画 基本計画について、ご説明をお願いします。

(事務局)

それでは、二つ目の議題について説明いたします。基本計画の構成等についてです。

— 資料に基づき説明 —

以上で説明を終わります。

続きまして、右上に「イメージ」と書かれました一枚の資料について説明いたします。

— 資料に基づき説明 —

以上で説明を終わります。

(三浦会長)

ありがとうございました。ただ今の基本計画の構成等の説明の前半は、重点化や整理

の仕方等の考え方についてのご説明をいただきました。後半では、具体的にどのような形でまとめるのかという形での具体例を含めてご説明いただきました。基本的な進め方についてご意見ございましたら、お願いいたします。

(金井委員)

基本構想については、多くのご意見がございましたが、非常にすばらしくまとめていただいたと思っております。これをぜひ実現していきたいなと思います。ただ、これは総論なので、総論は賛成でも各論に入った時に皆さんが納得いくようにできるかという懸念があります。その中で、事務局の方からお話がありましたが、各論のまとめ方として、今までにないまとめ方をさせていただいて、新しい発想でまとめていけるのかなと期待をしております。

そこで、各作業部会で意識していただきたいのは、絶対にこれは外せないというのをまとめていくと、あれもこれもになってしまいがちですが、本当に5年、10年でやらなければならないことかということを考えていただきたいと思います。

もう一つは、先ほどの説明で「横断的な取組」ということがございましたが、これがうまくいけば最大の長野市らしさになると思っておりますので、皆さん自分の部会でやらなければならないという思いはあるとは思いますが、自分の部会でやるべきことと、別の部会に任せられることの仕分けをしながら連携を図りながらやっていきたいと思っております。これから、我々は大変な役割を担っていきますので、皆さん各論に入った時の整理をしていただければと思います。

(三浦会長)

貴重なご意見ありがとうございます。私も、総論では全てが実現すれば非常にすばらしい長野市になることは分かっていますが、各論については今後様々な意見が出てくると思っております。本来の長野市らしさをどうやって実現するのか、まとめ方等これから大変だと思っておりますが、よろしくお願いいたします。

(白石委員)

私の作業部会では、「まちの将来像」が決まっていな中で分野ごとの構想を決めていくのはいかなものかという意見がありました。その中でも議論を始めまして、今「まちの将来像」が決まり、「横断的な取組」も方向性として出てきたわけです。その中で今後、構想に対して意見が出てくると思いますが、ここに記載されている分野ごとの構想が、修正を迫られることがあるかと思いますが、修正することはできるでしょうか。

(事務局)

構想については、構想がないと計画ができないので先に決めましたが、計画を作って

いく上で構想の文言や、考え方そのものも修正を迫られることも予想しています。ですから、基本計画がまとまってきたところで、もう一度構想を考え直すという作業をした方がいいと考えております。時期については、相談しながら決めていきたいと思いますが、立ち返ることは当然必要と考えております。

(滝沢委員)

32 ページの平成 28 年度の策定スケジュールですが、例えば産業・経済分野では観光専門分科会が重なっていると思いますが、これは連動していくということでしょうか。記載がありませんが、全く別に進むことはないかと思えます。

(事務局)

総合計画の策定と合わせて、各分野の個別の計画を作っていただいている部署がいくつもありまして、私どもとしては、審議会をこういった形で進めていきたいと考えておりますが、庁内の中で個別の計画を作っていくと、文言のやりとりやそれぞれの進捗状況もございまして、スケジュールどおりいかない場合がございます。担当者ごとに調整をしていきまして進めてまいりたいと思っておりますので、ご理解をお願いいたします。

(柳沢委員)

「イメージ」の資料で、「アンケートの指標」「統計指標」とありまして「現状値」と「目標」がございます。この目標値の設定は、「主な取組」の施策と連動してくると思えます。今まで大雑把な文言で表現していたものが、いきなり定量的な評価をするようになっているのですが、この目標の立て方は、どのように連動させていったらいいのか、非常に難しい問題だと思えます。

もう一つ、「(市民が思う割合)」というのは満足度の割合になると思えますが、総合計画を見た中で、例えば「救急体制が満足か」という問いに対して、経験がないのに満足度を聞かれても答えようがないはずですが、そこで適当に答えて 70%とかの現状値が出てしまう可能性もあると思えます。経験の有無によって、母集団がだれかによって、現状値が変わるので、「市民が思う」というのは、ターゲットを絞っての満足度でない、本当に満足度の高い計画は立てられないと思えます。

(事務局)

ありがとうございます。指標をどのように設定していくかというのは、非常に難しいところだと思っております。「アンケート指標 (市民が思う割合)」で、今までの第四次総合計画の中では、5,000 人の方を対象にした市民のまちづくりアンケートというものがございまして、その 5,000 人は無作為抽出で毎回対象者が変わっていました。60%以上の回答はありましたが、その時に発生した大きな事件・事故や経済状況によって大きく

トレンドが変わって答えも変わってきます。その時点での、市民の皆さんの世論はある程度見えるのかもしれませんが、前年度と比較した時に、なぜ上がったのか、なぜ下がったのかという事に関しては、信憑性に乏しいものにならざるを得ないという性質がございました。

そういったことから、第五次の「アンケート指標（市民が思う割合）」については、無作為抽出のアンケートとは別に、一定の方に継続してアンケートにお答えいただくモニター制度ができないかと思っております。5年間という長い期間になりますので、できれば審議会委員の皆さんや作業部会の皆さんにご協力いただければありがたいと思っております。

そのモニター制度の中では、一番最初に主観的な割合を計った上で、状況を見ながらアンケートの回答に対する理由を挙げていただくようなやり方で、推移を調べていけるような形でできればと思っております。委員の皆様には、こういったアンケート指標が望ましいのではないか、ですとか、どのような聞き方をするとその状況が的確に捉えられるのか、ですとか、目標値の設定の仕方、例えば現状維持といった目標があるかもしれませんし、100%でなければおかしいのではないか、という目標もあろうかと思いますが、そのことに関してもお知恵をお借りしてご議論いただきたいと思います。

（本間委員）

これから、作業部会を中心に議論が始まると思いますが、ここに書いてあるように作業部会というのは、縦割りの組織です。しかしこれからは、他の部会とも「横断的な取組」をしていくということですが、どの部会にも属さない事案が出てきた場合はどのように進めていったらよろしいでしょうか。

（三浦会長）

そうですね、時々この審議会で報告していただくというのが「横断的な取組」なのか、それともまた別の機会を設けて議論していくのか、その進め方に関してということだと思いますが、いかかですか。

（事務局）

まだ決まっておりませんが、実際に作業部会を行っていく時に、他の部会とも話をしたいというご意見になれば、事務局の担当者がおりますので、その時点で対応を考えたいと思っております。

他の複数の部会との話し合いが必要になることもあろうかと思えますし、全審議委員が分かっているべきだということもあるかもしれません。それは内容によって分けながら行っていきたいと思っております。スケジュールでご覧いただいているとおり、終わりが決まっているものですから、厳しい日程の中で機能的に動けるかということが心配ではあ

りますが、逆に短い期間であるからこそ、皆さんのお力をお借りしながら進めてまいりたいと思います。

(増山委員)

作業部会のスタートはどの程度の段階から入っていくのでしょうか。ある程度事務局の方でたたき台を作ってもらって、それを基にしてやっていくということによろしいでしょうか。

(事務局)

全くの白紙からではなく、担当の方でたたき台を作ります。それを直してもらいイメージを進めてまいりたいと思います。

(川北委員)

基本計画の策定についての話で、重点化するということでしたが、総合戦略も重点化して取り組みたいということだったと思いますが、重点化するものが重複するのではないかと思いますので、いかがでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。今回、総合計画、総合戦略を策定していく上でこの二つをどうやって一体化させていくか、整合性をとっていくかというのが大きな課題であります。

資料集の27ページの「基本計画」のところに「まち・ひと・しごと創生総合戦略との関係性や整合を図る内容を記載」とありますが、実際は具体的な考えは現時点ではありません。例えば28ページには、「分野横断的な取組を要する施策の重点化」をしていく必要があるということで、「具体的な例示」の中に「・人口減少時代への対応」という、正に総合戦略の中身の記載がありますが、これも表現の仕方の一つとして、総合戦略を総合計画の中にもう一度見せていくという形もあり得るかと思います。

そもそも総合戦略は、分野横断的な施策を取り入れたものでございますので、総合計画の中でもその位置付けを引き継ぎながら、総合計画においても重点的なものとして見えるような形で整合を図っていただけるのではないかと考えます。

(川北委員)

「横断的な取組」というのが特徴的だとしたら、基本構想の中に取り入れたほうがいいのか、基本計画のところで具現化を図ったほうがいいのかどちらがよろしいでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。今のところ、27 ページにあるように基本構想の一番最後に「施策の大綱」という形で、まずは分野的な姿を見せるようにしてあります。そして、その後に基本計画の中で「横断的な取組」を示す予定でありますが、確かに考え方からすると基本構想の中に記載するというのも、考えられると思いますが、今のところは基本計画に位置付けたいと思っております。

一つの理由は、基本構想は10年間という長いスパンの中で進んでいきます。そういう意味では、大きな方向性を示すものであります。一方、基本計画は、前期と後期それぞれ5年の計画です。こちらは、基本構想を実現するための具体的なものを記載していくこととなりますが、時代に対応した形で長くないスパンの中で手段を見直していくことで、場合によっては重点的なものも変わっていくことがあるため、「横断的な取組」を10年の基本構想ではなく、5年の基本計画の中に置くことによって時代に対応していくようなフレキシブルなものにしたいという思いから、基本計画に置いてあるものでございます。

(三浦会長)

よろしいでしょうか。まだまだご議論あるかと思いますが、先ほどお示しいただいた基本構想(案)に基づいて、基本計画を議論していくということでご理解いただけますでしょうか。

ありがとうございました。新年度に向けてスタートを切っていただくということで、本日の議事は以上でございますが、続いて総合戦略付属資料「アクションプラン」のご説明をお願いいたします。

4 その他

(人口減少対策課 川上補佐)

私からは、お手元の別冊資料「長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 付属資料[平成28年度アクションプラン]」についてご説明いたします。

— 資料に基づき説明 —

私からは以上でございます。

(三浦会長)

膨大な数がございますので、時間の都合で議論できませんが、今ご説明いただいたよ

うに平成 28 年度の予算としてある事業だということなので、ご理解いただければと思います。年度末には実際にどうだったのかということは、この審議会の中で時間をとっていただけるのでしょうか。

(人口減少対策課 川上補佐)

基本的には作業部会で検証や進捗管理等はしてまいりますが、内容の改正等が出てきた場合には、この審議会にもご報告いたしたいと思います。

(三浦会長)

ありがとうございました。他に委員の皆さん事務局の皆さん何かご意見等ございますでしょうか。それでは、議事を終了させていただきたいと思います。

5 閉会

(事務局)

ありがとうございました。今回の議論もまた参考にさせていただきたいと思います。

事務局からご案内がございます。次回の審議会の日程ですが、6月下旬から7月上旬に開催したいと思っておりますが、まだ先になりますので、これからスケジュール調整をいたしまして、ご案内を申し上げたいと思います。

もう1点ございます。先日、私どもの市議会の総合計画等調査研究特別委員会と意見交換をしていただいたところですが、現在その特別委員会から総合計画の策定について、議会側としての意見をまとめた提言をいただけるという話を聞いております。時期的には4月末だそうです。情報は皆さんにお伝えすべきだと思いますが、ちょうど審議会のない時期になってしまいますので、私から皆さんにお伝えしようかと考えております。ご承知おきください。

それでは、以上を持ちまして総合計画審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。